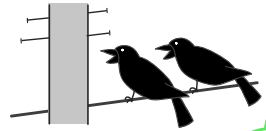


カラスとのかきあい方



毎年この季節になると、「カラスに襲われる」などの苦情が多数寄せられます。カラスの習性から付き合いう方を探ってみましょう。

○ごみを食い散らかす

カラスがごみをあさる様子を観察していると、赤っぽいものや濡れたものを狙っています。これは、栄養価がある食べ物(肉や魚)が見つかる確率の高い目印としているようです。

○攻撃してくる

カラスは鳥類の中でも子育て熱心。卵を産む5月からひなが巣立つ6月は特に神経質になっています。巣やひなに近づく人間はカラスにとって危険な敵なのです。

○鳴き声がうるさい

カラスはお互いの存在を確かめたり、自分の存在を誇示した

カラスはなぜ増えたか

生ごみや残飯という形で食べ物供給され、小さな公園の樹木から緑地や庭木など、巣作りの場所もたくさんあり、天敵となる猛きん類のいない私たちの

りするほか幼鳥が親鳥に食べ物ねだったりする際に鳴き声を発します。特にこの季節は一段とにぎやかになります。

○カラスは掃除屋

カラスは生態系の中では消費者であるとともに、死体を食べて片付ける自然の中の掃除屋(スカベンジャー)の役目をしていきます。そして、カラスのふんはさらに小さな動物やバクテリアによって分解され、再び植物の栄養となりやすい形にされます。カラスは自然の中のリサイクルが始まるきっかけを作る生き物といえます。

まちはカラスには好条件なのです。そしてこれらの条件の多くは人によって与えられたものだといえます。カラスの数を減らすとして、私たちとうまく共生できるように、まずは一人一人の小さな協力が必要です。

カラス被害の相談先

〈公園の場合〉
都市計画課 内線2103
☎048-463-0374(直通)
〈ごみ対策〉
資源リサイクル課
☎048-456-1593
〈その他に関すること〉
環境保全課 内線2262
☎048-463-1504(直通)

《対策》

被害を未然に防ぐ

脅しの効果を狙った防除器具は、カラスが慣れてしまうため、効果は短期的なものと考える必要があります。速効性はなくとも、長期的にみて、確実にカラスの数を減らすには次のような対策がもっとも効果的です。

ごみの出し方

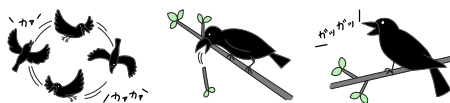
- ・収集日当日の午前8時30分までにごみを出す。
- ・ごみ袋はきちんと閉じ、生ごみは外から見えないように袋の奥に入れたり、工夫する。
- ・クリーンネットでごみをはみ出さないようにしっかりと覆って固定する。

無用な刺激をしない

- ・卵やひな、巣立つばかりの子を守るため、激しく威嚇・攻撃することがあります。繁殖期の5月から7月のひなが巣立つ6月まで集中します。カラスからの攻撃を防ぐためにはカラスを刺激しないことです。

カラスの危険な行動

小 ≡ 危険度 ≡ 大



・鳴きながら旋回して威嚇をする
・枝や葉を落とす
・ガッガッとおどろかすような声を出す

- ・イラスト(図)の行動に気がついたら早めに立ち去りましょう。ただし、どうしても近づかなければならない場合は、帽子や傘で防御することも必要です。
- ・それでも攻撃が激しい時は、巣(卵・ひな)を除去するという対策もありますが、時期を誤ると巣を作り直したり、さらに攻撃性を増すこともあり得ます。
- ・餌付けをしない(カラスの貴重な食料となり、人を恐れない習性となって、繁殖期に被害が生じる原因になります。カラスを対象にしない餌やりでも、すきを狙ってカラスが横取りし、おなじ効果を与えることになります)。
- ・庭やベランダに置くペットの餌を取られないように注意する。
- ・餌付けをしない(カラスの貴重な食料となり、人を恐れない習性となって、繁殖期に被害が生じる原因になります。カラスを対象にしない餌やりでも、すきを狙ってカラスが横取りし、おなじ効果を与えることになります)。

食料を与えない

巣材を与えない

- ・針金ハンガーは出しっぱなしにしない(鉄塔や電柱に巣を作ると停電などの被害も起こします)。

巣を破りにくくする

- ・庭木の二股、三股になっている枝木をせんでいていて巣を作りにくくし、また下からのぞけるようにする(カラスは餌場に近く人目につかない所に巣を作ります)。
- ・巣が作られたら、卵を産む前に巣落しするのも効果的です。(繁殖期に卵を産めないカラスが困って場所をかえる可能性があります)。

野生動物に餌をあげないで!

生態系のバランスを崩し、鳴き声やふんなど苦情の原因にもなります。カラス、はと、たぬきなど、野生動物に餌付けするのはやめましょう。

- ※有害鳥獣捕獲許可:環境保全課で申請を受け付けています。申請後、審査のうえ許可となります。無許可で卵、ひなを捕獲すると罰則の対象となります。